

## 「さんべで楽しむ歩くスキー！」

### 1 趣 旨

- ・冬の三瓶の自然に触れながら、歩くスキー等の体験を通して、三瓶地域の自然や体験活動に興味、関心を持ってもらう。
- ・「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

### 2 事業の概要

- (1) 期 日 ① 平成31年2月13日（水）～14日（木）＜1泊2日＞  
 ② 平成31年2月18日（月）～19日（火）＜1泊2日＞
- (2) 会 場 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 対 象 全世代
- (4) 参加者 ① 0名（申込1家族2名） 募集50名  
 ② 13名（子ども7名 大人6名） 募集50名  
 ※最少実施人数：3家族（グループ）または10名以上
- (5) 指導員 平野勝久 岡崎秀紀 【研修指導員（歩くスキー）】
- (6) 日程・研修内容

1 日 目	10:30	11:00	12:00	13:00～16:00		17:10	17:30	19:00～20:00	20:00～22:00	22:30
	入所・受付	オリエンテーション	昼食・休憩	<b>歩くスキー教室</b> （広場で練習をしたり、コースを歩いたりします） ※人数が多い場合は、コース分けをする可能性があります。		夕飯のつどい	夕食・入浴・休憩	<選択活動> ①とことん歩くスキー(ナイター) ②木エキーホルダーづくり ③自主活動	入浴・休憩	就寝
2 日 目	6:30	7:00	7:20	9:30	9:30～11:30		退所後は？			
	起床	朝のつどい	清掃・朝食	おわりの会	<選択活動> ①とことん歩くスキー ②おもいっきりそり遊び ※自主活動		・三瓶自然館サヒメル見学（割引券あり） ・埋没林公園見学（割引券あり） ・三瓶こもればの広場木工館で創作活動 ・さんべ温泉（割引券あり） ・世界遺産石見銀山見学 ・早めに帰宅 などなどご都合に合わせてプランニング!!			

### 3 事業の特色

#### ①プログラムデザインのポイント

三瓶で家族向けの歩くスキーの事業を実施して7年となる。毎年ニーズが高く、毎回定員を超える申し込みがある。冬の三瓶ならではの魅力的なプログラムを多くの人に体験してほしいと思っているが、閑散期は利用が週末に集中し、これ以上の受け入れが難しい状況である。そこで、今回新たに平日に事業を実施することで、閑散期の平日の利用促進を図るとともに、新たな利用者の獲得を狙って事業を展開した。また、雪不足等で歩くスキーが実施できない場合でも、そり遊びのコースを整備して利用できるようにするなど、参加者が雪遊びの楽しさを

実感できるよう工夫した。

## ② 運営（連携）のポイント

今シーズンは雪不足のため、歩くスキーのプログラム実施の可否が直前までわからない状況が続いた。そのため今回の事業では、状況に応じた対応が迅速にできるよう、事前に天候に応じたプログラムをシミュレーションした上で、研修指導員とも連携を密にしながらプログラムを組み立てたことで、事業の運営をスムーズに行うことができた。

## ③ 広報のポイント

平日に利用可能なのは、「保育園」、「保育園の園児」「平日休みのご家族」「シニア層」であると仮定し、「保育園」、「公民館」にターゲットをしばりチラシの配布を行った。

## 4 参加者へのアンケート結果

### (1) アンケートの集計

### (%) (2) 参加者の声

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	100	0	0	0
プログラム	100	0	0	0
運営	100	0	0	0
職員の対応	100	0	0	0

- ・昨年、週末の歩くスキーの事業に参加したが、参加者が多く、小さな子供を連れての参加は大変だった。平日開催だと参加人数が少ないので大変助かった。
- ・スタッフが優しく、子供も安心して活動することができた。

## 5 成果と課題

### 《成果》

- ・平日に事業を実施したところ、5家族13人の参加があった。雪不足等が原因による直前のキャンセルをあわせると約30名の申し込みがあり、閑散期に実施する平日事業に一定のニーズがあることが確認できた。継続することで周知され、参加者の広がりも期待できるため、来年度以降も実施できると良い。
- ・保育園からも事前の申し込みを受けることがあった。結果としてキャンセルではあったが、保育園向けの平日開催も、検討の余地があることがわかった。

### 《課題》

- ・平日休みの家庭及びシニア層へ情報が届くような広報手段を検討していく必要がある。



(担当：事業推進係 久城秀太 )